

情報システムユーザースキル標準 モデルカリキュラム

(02)事業戦略 & IS 戦略編

Ver.1.0

2010年3月

独立行政法人情報処理推進機構(IPA)

(表紙うら)

< も く じ >

知識項目対応表.....	P. 2
シラバス設定コース一覧.....	P. 3
シラバス	
1. (02-S-01) 事業戦略初級.....	P. 4
2. (02-S-02) 戦略立案初級.....	P.10
3. (02-S-03) IS 戦略初級.....	P.16
4. (02-S-04) 事業戦略中級.....	P.22
5. (02-S-05) 戦略立案中級.....	P.32
6. (02-S-06) IS 戦略中級.....	P.40
7. (02-S-07) 事業戦略上級.....	P.48
8. (02-S-08) IS 戦略上級.....	P.56

知識項目対応表

本編は、共通キャリア・スキルフレームワークの項目のうち、IS 活用の知識項目対応表(表 1)に「 = 主項目、 = 関連項目」でマークした箇所に対応しています。

(表 1) IS 活用の知識項目対応表

共通キャリア・スキルフレームワーク					対象項目
分野	大分類		中分類		
テクノロジー系	1	基礎理論	1	基礎理論	
			2	アルゴリズムとプログラミング	
	2	コンピュータシステム	3	コンピュータ構成要素	
			4	システム構成要素	
			5	ソフトウェア	
			6	ハードウェア	
	3	技術要素	7	ヒューマンインターフェース	
			8	マルチメディア	
			9	データベース	
			10	ネットワーク	
			11	セキュリティ	
	4	開発技術	12	システム開発技術	
			13	ソフトウェア開発技術管理	
マネジメント系	5	プロジェクトマネジメント	14	プロジェクトマネジメント	
	6	サービスマネジメント	15	サービスマネジメント	
			16	システム監査	
ストラテジ系	7	システム戦略	17	システム戦略	
			18	システム企画	
	8	経営戦略	19	経営戦略マネジメント	
			20	技術戦略マネジメント	
			21	ビジネスインダストリ	
	9	企業と法務	22	企業活動	
23			法務		

シラバス設定コース

本編は、シラバス設定コース一覧表（表2）に記載されたコースのシラバスを掲載しています。

（表2）シラバス設定コース一覧表

コース レベル	番号	コース名	研修方法	コースの コマ数	記載 ページ
ストラテジ					
初級	02-S-01	事業戦略初級	講義 （含ミニ演習課題）	90分×4 （1日間）	P.4
	02-S-02	戦略立案初級	講義 （含ミニ演習課題）	90分×4 （1日間）	P.10
	02-S-03	IS 戦略初級	講義 （含ミニ演習課題）	90分×4 （1日間）	P.16
中級	02-S-04	事業戦略中級	講義 （含ミニ演習課題）	90分×8 （2日間）	P.22
	02-S-05	戦略立案中級	ワークショップ （含講義）	180分×6 （3日間）	P.32
	02-S-06	IS 戦略中級	ワークショップ （含講義）	180分×6 （3日間）	P.40
上級	02-S-07	事業戦略上級	ワークショップ （含講義）	180分×6 （3日間）	P.48
	02-S-08	IS 戦略上級	講義 （含ミニ演習課題）	90分×8 （2日間）	P.56

シラバス 1.(02-S-01) 事業戦略初級

1.1. コースシラバス

コースコード	02-S-01
コース名	事業戦略初級
講座分類	初級
コース分野	ストラテジ
研修方法	講義（ミニ演習課題を含む）
受講前提	企業と法務および事業戦略（経営戦略）に関して入門的な知識を修得していること
コース概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営資源の活用、組織論、経営計画、マネジメントサイクルなど、企業経営に関する基本的な知識について学習する。 ・ 事業戦略に必要な財務諸表の見方や損益分岐点、管理会計をはじめとする財務分析の知識、マーケティング分析やマーケティングミックスなどのマーケティングの知識などを学習する。 ・ 経営要求を正しく理解し、経営環境や現行業務(As-Is)を調査・分析する事業環境分析や、課題を分析・抽出した事業戦略の策定、さらに事業戦略展開における活動・評価指標を設定とその状況の捕捉及び評価の方法など、事業戦略に関する基本的な知識について学習する。
コース目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上司の指導あるいは管理の下、または一部であれば独力で、事業戦略の策定に関する業務を遂行するために、経営要求を正しく理解し、経営環境や現行業務(As-Is)を調査・分析し、課題を分析・抽出して文書化ができる基礎的な知識を修得する。 ・ 経営管理に関する業務を遂行するために、経営計画やその実行、および財務分析やマーケティングなど、基礎的な知識を修得する。 ・ 事業戦略の展開に関する業務を遂行するために、全体計画の策定を理解し、事業戦略展開における活動・評価指標を設定できる基礎的な知識を修得する。
コースに対応する 情報処理技術者試験	基本情報技術者試験 （企業活動と法務、経営戦略領域）
修得スキルの 評価方法	<p>以下の状況等を総合的に判断して評価する。</p> <p>受講前・受講後の知識確認テスト 定量アンケート 受講レポート 演習課題の取り組み状況 など</p>

コースのコマ構成		
回数	コマタイトル	コマに対応する機能・役割定義
第 1 回	企業活動と経営管理手法	010-01. 経営要求の確認 010-02. 新ビジネスモデルへの提言 010-03. 事業戦略実現シナリオへの提言 130-01. 事業戦略の評価 130-02. 事業戦略達成度評価のフィードバック
第 2 回	マーケティング手法	010-01. 経営要求の確認 010-02. 新ビジネスモデルへの提言 010-03. 事業戦略実現シナリオへの提言
第 3 回	財務分析手法	010-01. 経営要求の確認 010-02. 新ビジネスモデルへの提言 010-03. 事業戦略実現シナリオへの提言
第 4 回	事業戦略策定手法	010-01. 経営要求の確認 010-02. 新ビジネスモデルへの提言 010-03. 事業戦略実現シナリオへの提言 130-01. 事業戦略の評価 130-02. 事業戦略達成度評価のフィードバック
備考		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ミニ演習課題は、基本情報技術者試験午後問題レベルが適切である。 		

1.2 . コマシラバス (1/4)

回数	第 1 回
コマタイトル	企業活動と経営管理手法
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業戦略を理解するために、企業活動の目的や企業理念をはじめ、コーポレートガバナンス、ゴーイングコンサーン、コンプライアンス、CSR (Corporate Social Responsibility : 企業の社会的責任) や企業組織の形態など、経営一般の知識について理解する。 ・ 上司の指導の下、経営計画やアクションプランの立案、経営上の問題点を把握し、解決するための PDCA (Plan - Do - Check - Action) サイクルなど、マネジメント手法について理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 企業活動</p> <p>企業活動の目的 企業理念 コーポレートガバナンス(企業統治) ゴーイングコンサーン(事業継続) コンプライアンス(法令遵守) CSR など</p> <p>(2) 企業組織</p> <p>階層構造 経営組織の構造 など</p> <p>(3) 経営資源</p> <p>ヒト・モノ・カネ・情報 経営資源配分 など</p> <p>(4) 経営計画</p> <p>中長期経営計画 短期(年度)経営計画 アクションプラン など</p> <p>(5) 経営管理</p> <p>経営管理の対象 PDCA サイクル など</p>
時間の目安	90 分 (講義 : 75 分、ミニ演習課題 : 15 分)
その他	

1.2 . コマシラバス (2/4)

回数	第 2 回
コマタイトル	マーケティング手法
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自社や競合他社を分析するために、マーケティング分析のさまざまな手法や、マーケティングミックス、製品ライフサイクル、顧客満足経営などの代表的なマーケティング理論について理解する。 ・ マスマーケティングやワントゥワンマーケティング、ターゲットマーケティングなど、代表的なマーケティング手法について理解する。
コマの学習内容	<p>(1) マーケティング マーケティングの目的 など</p> <p>(2) マーケティング分析 3C (Customer : 顧客、Company : 自社、 Competitor : 競合) 分析 市場分析 セグメンテーション ポジショニング など</p> <p>(3) マーケティングミックス 商品計画、販売計画 販売経路、販売促進 4P (Product : 製品、Price : 価格、Place : 流通、 Promotion プロモーション) 分析 など</p> <p>(4) 製品ライフサイクル 導入期・成長期・成熟期・衰退期 製品ポートフォリオ など</p> <p>(5) 顧客満足度経営 顧客価値創造 など</p> <p>(6) マーケティング手法 マスマーケティング ワントゥワンマーケティング ターゲットマーケティング リレーションシップマーケティング ダイレクトマーケティング など</p>
時間の目安	90 分 (講義 : 75 分、ミニ演習課題 : 15 分)
その他	

1.2 . コマシラバス (3/4)

回数	第 3 回
コマタイトル	財務分析手法
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業戦略の策定に必要な企業活動と会計との関係、および財務会計や管理会計などを理解する。 ・ 貸借対照表や損益計算書などの財務諸表から行う財務分析の手法やキャッシュフロー会計およびその目的を理解する。 ・ 経営活動に必要な資金を調達し、効率的な投資をする資金計画や資金管理、および資産管理の目的や考え方を理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 売上と利益</p> <p>売上（売上高と売上利益） 費用（固定費と変動費） 損益分岐点 など</p> <p>(2) 企業会計手順</p> <p>仕訳帳、総勘定元帳、試算表、精算表 貸借対照表、損益計算書 など</p> <p>(3) 財務諸表</p> <p>資産（流動資産、固定資産、繰延資産） 負債（流動負債、固定負債） 資本（株主資本） 費用（売上原価、販売費一般管理費、営業外費用、特別費用） 収益（売上総利益、営業利益、特別利益） キャッシュフロー会計（キャッシュフロー計算書） など</p> <p>(4) 資金計画と資金管理</p> <p>資金計画 資金管理 など</p> <p>(5) 資産管理</p> <p>資産管理 など</p>
時間の目安	<p>90 分</p> <p>（講義：75 分、ミニ演習課題：15 分）</p>
その他	

1.2 . コマシラバス (4/4)

回数	第 4 回
コマタイトル	事業戦略策定手法
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業戦略を策定する上で、経営者や管理者の意思決定や判断するのに必要な情報を整理するため、さまざまな情報ソースから各種の情報を集約して経営指標を導き出す経営ダッシュボードとその重要性を理解する。 ・ 経営環境分析結果やマーケティング分析結果および財務分析結果などを入力情報として、新ビジネスモデルや戦略マップなどの事業戦略を策定する基本的な手法と、事業戦略を実行する際のモニタリング活動に関する基本的な知識を理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 経営ダッシュボード 経営ダッシュボード など</p> <p>(2) 経営環境分析 外部環境分析 内部環境分析 など</p> <p>(3) マーケティング分析 セグメンテーション ポジショニング マーケティングミックス 製品ライフサイクル など</p> <p>(4) 財務分析 財務分析 キャッシュフロー会計 など</p> <p>(5) ビジネスモデル 現状ビジネスモデル 新ビジネスモデル など</p> <p>(6) 戦略マップ バランススコアカード など</p> <p>(7) モニタリング活動 モニタリング項目 モニタリング指標 モニタリング結果の評価 など</p>
時間の目安	90 分 (講義 : 75 分、ミニ演習課題 : 15 分)
その他	

シラバス 2.(02-S-02) 戦略立案初級

2.1. コースシラバス

コースコード	02-S-02
コース名	戦略立案初級
講座分類	初級
コース分野	ストラテジ
研修方法	講義（ミニ演習課題を含む）
受講前提	IS 戦略に関して入門的な知識を修得していること
コース概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ IS 戦略の立案のために必要な情報を収集する手法と、収集した情報を戦略立案のために整理・分析し、問題点・課題の抽出を行う各種メソッドなどの基礎的な知識と考え方を学習する。 ・ IS 戦略の実行をマネジメントするモニタリングの目的について理解し、モニタリング項目やその指標の設定、指標を捕捉する方法やタイミングなど基礎的な知識と考え方を学習する。 ・ モニタリングの結果を評価・検証し、その内容を次期戦略に活用する基礎的な知識と考え方を学習する。
コース目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上司の指導あるいは管理の下、または一部であれば独力で IS 戦略を策定する戦略立案メソッドを活用し、必要な情報を収集・整理・分析できる基本的な知識を修得する。 ・ IS 戦略の実行をマネジメントし、戦略を評価するモニタリング手法を理解し、適切なモニタリング指標の設定と捕捉ができる基本的な知識を修得する。 ・ 戦略を実行した結果を検証し、その内容を次期戦略に活用できる基本的な知識と考え方を修得する。
コースに対応する 情報処理技術者試験	基本情報技術者試験 （経営戦略、システム戦略領域）
修得スキルの 評価方法	<p>以下の状況等を総合的に判断して評価する。</p> <p>受講前・受講後の知識確認テスト</p> <p>定量アンケート</p> <p>受講レポート</p> <p>演習課題の取り組み状況 など</p>

コースのコマ構成		
回数	コマタイトル	コマに対応する機能・役割定義
第 1 回	戦略立案プロセスの基礎	020-01. 対象領域ビジネスおよび環境の分析 020-02. IS 戦略の策定 020-03. IS 戦略全体計画の策定 020-04. IS 戦略実行体制の確立 020-05. 意図と指針の周知 120-01. IS 戦略全体計画の評価 120-02. IS 戦略の評価
第 2 回	現行調査・分析手法の基礎	020-01. 対象領域ビジネスおよび環境の分析 020-02. IS 戦略の策定
第 3 回	戦略立案手法の基礎	020-02. IS 戦略の策定 020-03. IS 戦略全体計画の策定 020-04. IS 戦略実行体制の確立 020-05. 意図と指針の周知
第 4 回	戦略のモニタリング手法の基礎	120-01. IS 戦略全体計画の評価 120-02. IS 戦略の評価
備考		
・ ミニ演習課題は、基本情報技術者試験午後問題レベルが適切である。		

2.2 . コマシラバス (1/4)

回数	第 1 回
コマタイトル	戦略立案プロセスの基礎
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ IS 戦略を立案し、実行およびその管理と戦略実行の結果を評価する戦略の一連のプロセスを理解する。 ・ IS 戦略を立案するために、現行の業務プロセスと IT 環境について調査・分析する手順、および IS 戦略を策定する手順、さらに IS 戦略を展開・評価する手順について理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 戦略策定手順</p> <p>事業戦略の把握 戦略上の課題の特定 現行調査 現行モデルの把握 あるべきモデルの策定 現行モデルとあるべきモデルのギャップ把握 ギャップの解決策の策定 戦略の実行 戦略の状況把握と評価 など</p> <p>(2) 現行モデル</p> <p>現行業務プロセス 現行 IT 環境 など</p> <p>(3) あるべきモデル</p> <p>あるべき業務プロセス あるべき IT 環境 など</p> <p>(4) ギャップ分析手法</p> <p>ギャップの特定 ギャップの解決策 など</p> <p>(5) モニタリング</p> <p>モニタリング項目の設定 モニタリング目標値の設定 モニタリングの実施と管理図 評価と是正策 など</p>
時間の目安	90 分 (講義 : 75 分、ミニ演習課題 : 15 分)
その他	

2.2 . コマシラバス (2/4)

回数	第 2 回
コマタイトル	現行調査・分析手法の基礎
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ IS 戦略の立案の前提となる経営ビジョンやミッション、および事業戦略の内容を確認する手法について理解する。 ・ IS 戦略の立案に必要な現行業務プロセス、現行 IT 環境など、現行調査・分析する手法について理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 経営ビジョン・ミッションの確認</p> <p>企業理念 事業領域 存在意義 経営姿勢 行動規範 経営目標 など</p> <p>(2) 事業戦略の確認</p> <p>事業戦略 事業方針 事業戦略の目標値 など</p> <p>(3) 現行モデルの把握</p> <p>現行業務プロセス 現行 IT 環境 など</p> <p>(4) 現行モデル分析・評価のツール</p> <p>PPM (Product Portfolio Management ：プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント) バリューチェーンモデル SWOT (Strengths : 強み、Weaknesses : 弱み、 Opportunities : 機会、Threats : 脅威) 分析 3C 分析 7S (Shared value : 共通の価値観・理念、 Style : 経営スタイル・社風、Staff : 人材、Skill : スキル、 Strategy : 戦略、Structure : 組織構造、System : システム) など</p>
時間の目安	<p>90 分</p> <p>(講義 : 75 分、ミニ演習課題 : 15 分)</p>
その他	

2.2 . コマシラバス (3/4)

回数	第 3 回
コマタイトル	戦略策定手法の基礎
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営ビジョンやミッション、事業戦略の内容やその目標値などから IS 戦略の対象となる範囲を特定し、その範囲の現行業務プロセスおよび現行 IT 環境の確認する方法を理解する。 ・ 経営ビジョンやミッション、事業戦略、現行業務プロセスおよび現行 IT 環境などの入力情報から IS 戦略の課題を特定し、IS 戦略を立案する方法を理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 入力情報</p> <p>経営ビジョン・ミッション 事業戦略 現行業務プロセス 現行 IT 環境 など</p> <p>(2) 戦略策定ツール</p> <p>ロジカルシンキング ロジックツリー ブレスト手法 ヒアリング手法 アンケート手法 問題点・課題の抽出手法 マーケティング理論 など</p> <p>(3) 戦略策定手法</p> <p>ベンチマーク シナリオプランニング 戦略マップ など</p>
時間の目安	<p>90 分</p> <p>(講義 : 75 分、ミニ演習課題 : 15 分)</p>
その他	

2.2 . コマシラバス (4/4)

回数	第 4 回
コマタイトル	戦略のモニタリング手法の基礎
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戦略実行におけるモニタリングの意義を理解し、KGI (Key Goal Indicator : 重要目標達成指標) と KPI (Key Performance Indicator : 重要業績評価指標) との関係、さらに各指標の目標値とそれを実現するための実行施策に関する考え方を理解する。 ・ モニタリング項目の指標の捕捉方法とそのタイミングについて理解し、さらに、捕捉した結果の分析と評価する手法について理解する。
コマの学習内容	<p>(1) モニタリング モニタリングの目的と意義 モニタリング項目 など</p> <p>(2) モニタリング指標 KGI KPI 目標値 実行施策 など</p> <p>(3) モニタリング手法 捕捉方法 捕捉タイミング など</p> <p>(4) モニタリングの評価 管理図法 など</p> <p>(5) 改善要求 改善要求事項のとりまとめ など</p>
時間の目安	90 分 (講義 : 75 分、ミニ演習課題 : 15 分)
その他	

シラバス 3.(02-S-03) IS 戦略初級

3.1. コースシラバス

コースコード	02-S-03
コース名	IS 戦略初級
講座分類	初級
コース分野	ストラテジ
研修方法	講義（ミニ演習課題を含む）
受講前提	IS 戦略に関して入門的な知識を修得していること
コース概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ IS 戦略の立案・策定・展開・評価に必要な情報の分析や課題の導出および戦略の評価が行えるように、そのメソドロジに関する基本的な知識を学習する。 ・ IS 戦略全般に関わる基礎知識、特に情報システム(As-Is)の調査・分析、情報技術動向の調査・分析、IS に関する課題抽出などに関する基本的な知識を学習する。
コース目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上司の指導あるいは管理の下、あるいは一部であれば独力で情報システム (As-Is) の目的、機能、規模、コスト、運用などを調査・分析する基本的な知識を修得する。 ・ IT 化の対象領域ビジネスについて最上位のプロセスレベルで理解し、中長期的の視点で、あるべき情報システムの全体像 (To-Be) や投資計画に関する基本的な知識を修得する。 ・ IS 戦略遂行における課題を抽出し、戦略として取りまとめ遂行する基本的な知識を修得する。 ・ IS 戦略の展開・評価のためのモニタリング指標の捕捉と評価ができる基本的な知識を修得する。
コースに対応する 情報処理技術者試験	基本情報技術者試験 (システム戦略領域)
修得スキルの 評価方法	<p>以下の状況等を総合的に判断して評価する。</p> <p>受講前・受講後の知識確認テスト</p> <p>定量アンケート</p> <p>受講レポート</p> <p>演習課題の取り組み状況 など</p>

コースのコマ構成		
回数	コマタイトル	コマに対応する機能・役割定義
第 1 回	IS の現状分析の基礎	020-01. 対象領域ビジネスおよび環境の分析 020-02. IS 戦略の策定
第 2 回	IS 戦略策定の基礎	020-02. IS 戦略の策定 020-03. IS 戦略全体計画の策定
第 3 回	IS 戦略実行の基礎	020-04. IS 戦略実行体制の確立 020-05. 意図と指針の周知
第 4 回	IS 戦略評価の基礎	120-01. IS 戦略全体計画の評価 120-02. IS 戦略の評価
備考		
<ul style="list-style-type: none"> ミニ演習課題は、基本情報技術者試験午後問題レベルが適切である。 		

3.2 . コマシラバス (1/4)

回数	第 1 回
コマタイトル	IS の現状分析の基礎
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ IT 化動向について、調査・分析やベストプラクティスを把握する方法を理解する。 ・ IT 化の対象領域ビジネスを最上位のプロセスレベルで理解し、中長期的の視点で、あるべき情報システムの全体像（To-Be）の策定や情報化投資計画の方法について理解する。
コマの学習内容	<p>(1) IT 化の動向</p> <p>IT 新改革戦略</p> <p>電子入札制度</p> <p>パッケージソフト</p> <p>SaaS（Software as a Service ：ネットワーク経由のアプリケーションソフト）</p> <p>ASP（Application Service Provider ：アプリケーションサービスを提供する組織）など</p> <p>(2) IT 化のベストプラクティス</p> <p>CRM（Customer Relationship Management：顧客関係管理）</p> <p>SCM（Supply Chain management：供給連鎖管理）</p> <p>SFA（Sales Force Automation：営業支援） など</p> <p>(3) 業務プロセスモデル</p> <p>ビジネスモデル</p> <p>業務プロセスモデル</p> <p>エンタープライズアーキテクチャ など</p> <p>(4) 情報モデル</p> <p>データモデル</p> <p>UML（Unified Modeling Language：統一モデリング言語） など</p> <p>(5) 情報化投資計画</p> <p>情報化投資計画 など</p>
時間の目安	<p>90 分</p> <p>（講義：75 分、ミニ演習課題：15 分）</p>
その他	

3.2 . コマシラバス (2/4)

回数	第 2 回
コマタイトル	IS 戦略策定の基礎
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ IS 戦略が、事業戦略を実現するためのものであり、IS 戦略と事業戦略とに整合性が求められ、IS 全体の視点からの最適化が必要であることを理解する。 ・ IS 戦略を策定するために、業務機能と業務組織の最上位レベルでモデル化し、現行モデルとあるべきモデルとのギャップ分析から情報システム化の対象と要件を明確にする方法を理解する。 ・ IS 戦略の実現状況を把握するために、モニタリングする項目と目標値を設定する方法を理解する。
コマの学習内容	<p>(1) IS 戦略の位置付け</p> <p>事業戦略との関係 全体最適化計画との関係 個別案件との関係 など</p> <p>(2) 対象業務の選定</p> <p>業務プロセスモデル 現行業務プロセスモデル 新業務プロセスモデル 業務プロセスのギャップ分析 など</p> <p>(3) 対象 IT の選定</p> <p>情報モデル 現状情報モデル 新情報モデル 情報モデルのギャップ分析</p> <p>(4) モニタリング項目の設定</p> <p>バランススコアカード CSF (Critical Success Factors : 主要成功要因) KGI 目標値 など</p>
時間の目安	90 分 (講義 : 75 分、ミニ演習課題 : 15 分)
その他	

3.2 . コマシラバス (3/4)

回数	第 3 回
コマタイトル	IS 戦略実行の基礎
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体最適化された IS 戦略を実行するために、中長期的な情報システムの投資原案を作成し、個別案件ごとに計画を分割して実施する方法を理解する。 ・ 個別案件ごとに企業目標達成に向けたリスク評価し、全体最適化された IS 戦略との整合性のある個別案件の計画方法を理解する。 ・ IT ガバナンスに基づく IS 戦略を展開するために、システムオーナーとデータオーナーを明確にし、プロセスフレームワーク並びにコントロールフレームワークを確立する方法を理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 全体最適化</p> <p>全体最適化の視点 中長期計画 短期（単年度）計画 など</p> <p>(2) 個別案件</p> <p>単年度計画と個別案件 個別案件のリスク評価 個別案件の優先順位付け など</p> <p>(3) IT ガバナンス</p> <p>システムオーナー データオーナー プロセスフレームワーク コントロールフレームワーク など</p> <p>(4) モニタリング項目の捕捉</p> <p>バランススコアカード KGI KPI 目標値 など</p>
時間の目安	<p>90 分</p> <p>（ 講義：75 分、ミニ演習課題：15 分 ）</p>
その他	

3.2 . コマシラバス (4/4)

回数	第 4 回
コマタイトル	IS 戦略評価の基礎
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ IS 戦略の全体計画で定めたモニタリング指標について、定められた方法とタイミングで把握し、適切に分析・評価し、次期全体計画にフィードバックする方法を理解する。 ・ IS 戦略で定めたモニタリング指標について、定められた方法とタイミングで把握し、適切に分析・評価し、次期 IS 戦略にフィードバックする案を作成する方法を理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 全体計画指標のモニタリング モニタリング指標 モニタリング方法とタイミング など</p> <p>(2) 全体計画指標の差異分析 モニタリング実測値 モニタリング差異分析 原因追求 など</p> <p>(3) 全体計画指標の評価 評価指標の検証 評価指標の評価 次期全体計画へのフィードバック など</p> <p>(4) IS 戦略のモニタリング 全体計画指標の評価結果 モニタリング指標 モニタリング方法とタイミング など</p> <p>(5) IS 戦略の差異分析 モニタリング実測値 モニタリング差異分析 原因追求 など</p> <p>(6) IS 戦略の評価 評価指標の検証 評価指標の評価 など 次期 IS 戦略へのフィードバック など</p>
時間の目安	90 分 (講義 : 75 分、ミニ演習課題 : 15 分)
その他	

シラバス 4.(02-S-04) 事業戦略中級

4.1. コースシラバス

コースコード	02-S-04
コース名	事業戦略中級
講座分類	中級
コース分野	ストラテジ
研修方法	講義（ミニ演習課題を含む）
受講前提	企業と法務および事業戦略（経営戦略）に関して基礎的な知識を修得していること
コース概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「事業戦略初級」の後続コースとして、事業戦略や経営管理に関する業務を遂行するために必要な応用的知識について学習とする。 ・ 経営要求・経営環境の確認、対象ビジネスの理解、基本戦略の策定、全体計画の策定、年度計画の策定、推進体制の提案などの方法について学習する。 ・ 経営要求を正しく理解し、経営環境や現行業務(As-Is)を調査・分析する事業環境分析や、課題を分析・抽出し、事業戦略展開における活動・評価指標を設定など、事業戦略策定に関する応用的な知識について学習する。
コース目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独力で、事業戦略や経営管理、経営企画に関する業務を遂行できる知識を修得する。 ・ 新しいビジネスモデルから革新的な事業領域を選択して最上位レベルでモデル化し、業務の新全体像（To-Be）について、業務機能と業務組織の観点から新全体像を描くことができる知識を修得する。 ・ 事業戦略の実行にあたり、実行状況を捕捉するモニタリング指標を策定できる知識を修得する。 ・ 事業戦略全体の計画策定と推進体制について提案できる知識を修得する。
コースに対応する 情報処理技術者試験	応用情報技術者試験 （企業活動と法務、経営戦略領域）
修得スキルの 評価方法	<p>以下の状況等を総合的に判断して評価する。</p> <p>受講前・受講後の知識確認テスト</p> <p>定量アンケート</p> <p>受講レポート</p> <p>演習課題の取り組み状況 など</p>

コースのコマ構成		
回数	コマタイトル	コマに対応する機能・役割定義
第 1 回	企業活動と事業戦略	010-01. 経営要求の確認 010-02. 新ビジネスモデルへの提言 010-03. 事業戦略実現シナリオへの提言 130-01. 事業戦略の評価 130-02. 事業戦略達成度評価のフィードバック
第 2 回	経営管理と事業戦略	010-01. 経営要求の確認 010-02. 新ビジネスモデルへの提言 010-03. 事業戦略実現シナリオへの提言
第 3 回	事業戦略の対象ビジネスの選定	010-01. 経営要求の確認 010-02. 新ビジネスモデルへの提言
第 4 回	経営環境分析	010-01. 経営要求の確認 010-02. 新ビジネスモデルへの提言
第 5 回	事業戦略の策定	010-02. 新ビジネスモデルへの提言 010-03. 事業戦略実現シナリオへの提言 130-01. 事業戦略の評価 130-02. 事業戦略達成度評価のフィードバック
第 6 回	全体計画・年度計画の策定	010-02. 新ビジネスモデルへの提言 010-03. 事業戦略実現シナリオへの提言 130-01. 事業戦略の評価 130-02. 事業戦略達成度評価のフィードバック
第 7 回	推進体制の確立	010-02. 新ビジネスモデルへの提言 010-03. 事業戦略実現シナリオへの提言 130-01. 事業戦略の評価 130-02. 事業戦略達成度評価のフィードバック
第 8 回	事業戦略の評価手法	130-01. 事業戦略の評価 130-02. 事業戦略達成度評価のフィードバック
備考		
<ul style="list-style-type: none"> ミニ演習課題は、応用情報技術者試験午後問題レベルが適切である。 		

4.2 . コマシラバス (1/8)

回数	第 1 回
コマタイトル	企業活動と事業戦略
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業戦略を策定するために考慮すべき経営ビジョンやミッション、経営目標について理解する。 ・ 企業は、自らの経営資源を管理し、経済的機能、営利活動、市場での独立性など、多面的な性質をもつ有機的な組織体であることを理解する。 ・ 企業は、所有と経営の分離が行なわれ、所有者に対する責任として IR (Investor Relations : 企業情報の提供) 活動を行い、事業体を継続させ、かつ事業継続計画を立案していることを理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 経営ビジョン・ミッション</p> <p>企業理念 事業領域、存在意義、経営姿勢、行動規範 経営目標 など</p> <p>(2) 企業の特徴</p> <p>経済活動を行う経済主体 営利活動 (私企業) 所有と経営の分離 IR 活動 継続的活動 計画的活動 など</p> <p>(3) 事業継続</p> <p>ゴーイングコンサーン(事業継続) BCP (Business Continuity Plan : 事業継続計画) など</p> <p>(4) 企業形態</p> <p>準則主義 有限責任性 株式会社 子会社、持株会社 など</p>
時間の目安	90 分 (講義 : 80 分、ミニ演習課題 : 10 分)
その他	

4.2 . コマシラバス (2/8)

回数	第 2 回
コマタイトル	経営管理と事業戦略
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業の目的を達成するために企業活動を円滑に行い、経営資源の最適配分、有効活用の仕組み作りや運用を行う経営管理などの必要性和目的を理解する。 ・ 戦略のリーダーシップを発揮する経営者の職能や役職、代表的な組織構造の種類と特徴を理解する。 ・ 国際化、業際化などの経営環境の変化、および企業が取り組むべき課題を理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 経営管理</p> <p>経営目標と経営計画 経営資源の最適配置 事業計画 業績評価</p> <p>(2) TQM (Total Quality Management : 総合的品質管理)</p> <p>財務管理、資産管理、人事管理、情報管理 など</p> <p>(3) ヒューマンリソースマネジメント</p> <p>エンプロイアビリティ 年俸制、成果主義 コンピテンシ、コーチング ジョブローテーション、 キャリア開発、選抜型人事 など</p> <p>(4) 経営組織</p> <p>階層型組織 (ピラミッド型組織)、フラット型組織 職能別組織、ラインアンドスタッフ組織、機能別組織 マトリックス組織、事業部制組織、カンパニ制組織、 CEO (Chief Executive Officer : 最高経営責任者) CIO (Chief Information Officer : 最高情報責任者) CFO (Chief Financial Officer : 最高財務責任者) COO (Chief Operating Officer : 最高執行責任者) など</p>
時間の目安	<p>90 分</p> <p>(講義 : 80 分、ミニ演習課題 : 10 分)</p>
その他	

4.2 . コマシラバス (3/8)

回数	第 3 回
コマタイトル	事業戦略の対象ビジネスの選定
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業戦略を策定するために、経営方針や企業目標、中長期構想などを正確に捉えることの重要性を理解する。 ・ 経営方針や企業目標、中長期構想などから、事業戦略として策定する対象ビジネス領域を選定する方法を理解する。 ・ 対象となるビジネス領域を最上位のビジネスモデルとして表記する方法を理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 範囲の選定の重要性 事業戦略策定選定の重要性 など</p> <p>(2) 事業戦略の策定範囲の選定 経営方針・企業目標・中長期構想などからの選定 経営目標と経営計画からの選定 事業の継続性からの選定 バリューチェーン分析 など</p> <p>(3) 戦略の範囲 全社戦略 事業戦略 機能別戦略 など</p> <p>(4) 事業ドメイン分析 現状事業ドメイン 新事業ドメイン など</p> <p>(5) 最上位ビジネスモデル 現状ビジネスモデル 新ビジネスモデル</p> <p>(6) ビジネスモデル表記法 ビジネス関連図 ビジネス機能関連図 など</p>
時間の目安	90 分 (講義 : 70 分、ミニ演習課題 : 20 分)
その他	

4.2 . コマシラバス (4/8)

回数	第 4 回
コマタイトル	経営環境分析
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業戦略策定の入力情報は、最新かつ正確であることが条件となり、さらに経営環境分析結果が戦略策定に影響を与える重要性について理解する。 ・ 経営環境分析の内容として、マクロ経営環境やミクロ経営環境などの外部経営環境分析について理解する。 ・ 経営環境分析の内容として、社内のシステム・人材・技術・経営力・財務・ネットワーク・生産能力・立地など内部経営環境分析について理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 経営環境分析の重要性 最新情報の入手 正確な情報の入手 など</p> <p>(2) マクロ経営環境分析 政治環境 経済環境 技術環境 社会環境 など</p> <p>(3) ミクロ経営環境分析 対象となる市場の規模 市場の成長性 競争状況 流通チャネルの構造 顧客動向 など</p> <p>(4) 内部環境分析 経営力 財務力 技術力 生産力 人材 立地条件 その他の内部環境 など</p>
時間の目安	90 分 (講義 : 70 分、ミニ演習課題 : 20 分)
その他	

4.2 . コマシラバス (5/8)

回数	第 5 回
コマタイトル	事業戦略の策定
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が継続し、組織が発展・成長するために競争戦略を策定することや戦略を策定する際に考慮するドメイン、資源展開、競争優位、シナジーについて理解する。 ・ 事業戦略を策定する基本的な手順と代表的な戦略フレームについて理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 事業戦略策定の目的</p> <p>事業の発展 成長戦略 効率化戦略</p> <p>(2) 事業戦略策定の視点</p> <p>ドメイン（領域） 資源展開 競争優位性 シナジー（効果・利益）</p> <p>(3) 代表的なフレーム</p> <p>競争基本戦略 （コストリーダーシップ戦略・差別化戦略・集中戦略） ポジション別戦略 （リーダー・チャレンジャー・フォロワー・ニッチャ戦略）</p> <p>(4) 戦略策定プロセス</p> <p>経営理念・経営目標の確認 経営環境分析・評価 主要成功要因の抽出 新ビジネスモデルの策定 戦略マップの作成 目標値の設定 戦略シナリオの作成 など</p> <p>(5) 事業戦略評価指標の設定</p> <p>評価指標の設定 など</p>
時間の目安	<p>90 分</p> <p>（講義：70 分、ミニ演習課題：20 分）</p>
その他	

4.2 . コマシラバス (6/8)

回数	第 6 回
コマタイトル	全体計画・年度計画の策定
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が継続し、組織が発展・成長するための事業戦略を展開する上で、戦略のゴールとなる戦略目標から全体を計画する方法や内容、およびその際の留意点などを理解する。 ・ 全体最適を実現する全体計画であるための条件や検討する視点などを理解する。 ・ 中長期にわたる全体計画から短期の年度計画に落とし込む時の考え方を理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 製品・市場マトリックス 既存製品 - 既存市場 既存製品 - 新市場 新製品 - 既存市場 新製品 - 新市場 など</p> <p>(2) プロダクト・ライフ・サイクル 導入期・成長期・成熟期・衰退期 など</p> <p>(3) プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント 市場成長率 相対的市場シェア 花形、金の成る木、問題児、負け犬 など</p> <p>(4) 年度計画の策定 前多雨計画(ゴール)の確認 中間目標の設定 実施項目の検討 年度計画への切り分け</p> <p>(5) 年度計画の評価指標の設定 など 評価指標の設定 など</p>
時間の目安	90 分 (講義 : 75 分、ミニ演習課題 : 15 分)
その他	

4.2 . コマシラバス (7/8)

回数	第 7 回
コマタイトル	推進体制の確立
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業戦略を実行し、進捗状況を把握する推進体制に関する組織、品質、費用、期限等の検討すべき事項について理解する。 ・ 事業戦略を実行する上で採用されるプロジェクト体制の考え方と、実際にプロジェクトをマネジメントする際に留意すべき事項などについて理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 事業戦略実行 推進体制 戦略の品質 変革の費用 実現期限 など</p> <p>(2) プロジェクト体制 プロジェクト目的・目標 期間 予算 組織横断型チーム編成 など</p> <p>(3) プロジェクト体制の構築 プロジェクト組織 など</p> <p>(4) プロジェクト日程マネジメント ガントチャート PERT理論（アロー型、フロー型） など</p> <p>(5) プロジェクトマネジメントの要素 コスト管理 人的資源管理 コミュニケーション管理 調達資源管理 リスク管理 など</p>
時間の目安	90 分 （講義：75 分、ミニ演習課題：15 分）
その他	

4.2 . コマシラバス (8/8)

回数	第 8 回
コマタイトル	事業戦略の評価手法
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業戦略の全体計画で策定された事業戦略評価指標、および年度計画で策定された年度計画評価指標について、決められた方法とタイミングによって把握することを理解する。 ・ 把握した事業戦略評価指標および年度計画評価指標については、実測値と目標値とを対比した差異分析等を行い、その結果を評価および検証すること理解する。 ・ 評価および検証した結果から適切な評価結果を導き、次期事業戦略に関する課題を抽出・整理することを理解する。
コマの学習内容	<p>(1) モニタリングの組織体制</p> <p style="padding-left: 40px;">モニタリング組織</p> <p style="padding-left: 40px;">モニタリング組織のミッション</p> <p style="padding-left: 40px;">モニタリング組織の具体的アクション など</p> <p>(2) モニタリングの仕組み</p> <p style="padding-left: 40px;">IT ツール活用</p> <p style="padding-left: 40px;">会議体</p> <p style="padding-left: 40px;">意思決定 など</p> <p>(3) 年度計画評価指標のモニタリング</p> <p style="padding-left: 40px;">年度計画評価指標の差異分析</p> <p style="padding-left: 40px;">年度計画評価指標の検証</p> <p style="padding-left: 40px;">年度計画評価指標の評価</p> <p style="padding-left: 40px;">年度計画評価指標の問題点</p> <p>(4) 事業戦略評価指標のモニタリング</p> <p style="padding-left: 40px;">事業戦略評価指標の差異分析</p> <p style="padding-left: 40px;">事業戦略評価指標の検証</p> <p style="padding-left: 40px;">事業戦略評価指標の評価</p> <p style="padding-left: 40px;">事業戦略評価指標の問題点</p> <p>(5) 事業戦略達成評価のフィードバック</p> <p style="padding-left: 40px;">事業戦略評価指標の問題点</p> <p style="padding-left: 40px;">戦略達成評価のフィードバック など</p>
時間の目安	<p>90 分</p> <p>(講義 : 75 分、ミニ演習課題 : 15 分)</p>
その他	

シラバス 5.(02-S-05) 戦略立案中級

5.1. コースシラバス

コースコード	02-S-05
コース名	戦略立案中級
講座分類	中級
コース分野	ストラテジ
研修方法	ワークショップ（講義を含む）
受講前提	IS 戦略に関して基礎的な知識を修得していること
コース概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「戦略立案初級」の後続コースとして、独力で IS 戦略を立案するために必要な各種メソッドロジを理解し、情報を収集する手法と収集した情報を戦略立案のために整理・分析し、問題点・課題の抽出を行う応用的な知識と考え方を学習する。 ・ 独力で IS 戦略を立案するために、経営環境分析や事業ドメイン分析の手法、業界内におけるポジショニングや競争力などに関するコンサルティングメソッドロジ、および IS 戦略の実現とモニタリングを行うために必要な各種指標と目標値の設定、及びその測定方法の設定について学習する。
コース目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独力で、IS 戦略を策定するために戦略立案メソッドロジを活用し、経営環境・ビジネスモデル・業務の分析・調査を実施し、分析結果と企業目標の関係を定義できる応用的な知識とスキルを修得する。 ・ 現行業務(As-Is)を調査・分析し、業務における管理面と業務面を評価できる応用的な知識とスキルを修得する。 ・ IS 戦略の達成度や目標到達状況を評価するモニタリング手法を理解し、適切なモニタリング指標を設定し、その結果を捕捉、検証し、その内容を次期戦略に活用する応用的な知識と考え方を修得する。
コースに対応する 情報処理技術者試験	応用情報技術者試験 (経営戦略、システム戦略領域)
修得スキルの 評価方法	<p>以下の状況等を総合的に判断して評価する。</p> <p>受講前・受講後の知識確認テスト 定量アンケート 受講レポート 演習課題の取り組み状況 など</p>

コースのコマ構成		
回数	コマタイトル	コマに対応する機能・役割定義
第 1 回	戦略策定の環境分析手法	020-01. 対象領域ビジネスおよび環境の分析
第 2 回	戦略の立案手法	020-02. IS 戦略の策定
第 3 回	戦略目標の設定手法	020-03. IS 戦略全体計画の策定
第 4 回	IT 系と非 IT 系の分離	020-04. IS 戦略実行体制の確立 020-05. 意図と指針の周知
第 5 回	業務の新イメージの立案手法	020-04. IS 戦略実行体制の確立 020-05. 意図と指針の周知
第 6 回	戦略の評価手法	120-01. IS 戦略全体計画の評価 120-02. IS 戦略の評価
備考		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケースに使用するモデル企業は、文書または図解で提示し、第 1 回から第 6 回まで通して利用できるものが望ましい。 		

5.2 . コマシラバス (1/6)

回数	第 1 回
コマタイトル	戦略策定の環境分析手法
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独力で経営環境分析を実施するために、現状事業ドメイン分析や業界特性分析、SWOT 分析など、さまざまなフレームの利活用に関する応用的知識を理解する。 ・ IS 戦略策定において、適切に経営環境分析ができるよう、ワークショップを通じて気付きを得る。
コマの学習内容	<p>- - 講義 - -</p> <p>(1) 現状事業ドメイン分析 現状顧客 顧客ニーズ ニーズに対するノウハウ</p> <p>(2) 業界特性分析 市場・顧客 競業企業 新規参入者 代替品・代替サービス 供給者 など</p> <p>(3) SWOT 分析 (内部)強み (内部)弱み (外部)事業機会 (外部)脅威</p> <p>- - ワークショップ - -</p> <p>(1) 現状事業ドメイン分析 (2) 業界特性分析 (3) SWOT 分析</p>
時間の目安	180 分 (講義 : 30 分、ワークショップ : 150 分)
その他	

5.2 . コマシラバス (2/6)

回数	第 2 回
コマタイトル	戦略の立案手法
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独力で、経営環境分析結果から戦略で実現すべき問題点を抽出・特定できるように、SWOT クロス分析手法などから問題点の抽出、問題点の優先順位付け、問題点の特定など、さまざまなフレームの利活用に関する応用的知識を理解する。 <p>IS 戦略策定において、適切に問題点や課題を抽出し、CSF を決定できるよう、ワークショップを通じて気付きを得る。</p>
コマの学習内容	<p>- - 講義 - -</p> <p>(1) SWOT クロス分析</p> <p>強み - 機会</p> <p>強み - 脅威</p> <p>弱み - 機会</p> <p>弱み - 脅威</p> <p>(2) 問題点の抽出</p> <p>(3) 問題点の順位付け</p> <p>実現度</p> <p>優先度</p> <p>効果・貢献度 など</p> <p>(4) CSF の決定</p> <p>- - ワークショップ - -</p> <p>(1) SWOT のクロス分析</p> <p>(2) 問題点の抽出</p> <p>(3) 問題点の順位付け</p> <p>(4) CSF の決定</p>
時間の目安	<p>180 分</p> <p>(講義 : 30 分、ワークショップ : 150 分)</p>
その他	

5.2 . コマシラバス (3/6)

回数	第 3 回
コマタイトル	戦略目標の設定手法
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独力で、CSF が実現した結果となる新ビジネスモデルや CSF を実現するための中間目標や実行施策の設定など、戦略マップを代表とするさまざまなフレームを利活用して表記する応用的知識を理解する。 ・ IS 戦略策定において、適切な新ビジネスモデルを策定し、CSF を実現するための中間目標や実行施策の設定ができるよう、ワークショップを通じて気付きを得る。
コマの学習内容	<p>- - 講義 - -</p> <p>(1) 新ビジネスモデル ビジネス関連図 機能関連図 など</p> <p>(2) 戦略マップの作成 財務の視点 顧客の視点 業務プロセスの視点 学習と成長の視点</p> <p>(3) KGI の設定 KGI と目標値の設定</p> <p>- - ワークショップ - -</p> <p>(1) 新ビジネスモデル (2) BSC 戦略マップの作成 (3) KGI と目標値の設定</p>
時間の目安	180 分 (講義 : 30 分、ワークショップ : 150 分)
その他	

5.2 . コマシラバス (4/6)

回数	第 4 回
コマタイトル	IT 系と非 IT 系の分離
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独力で IS 戦略を策定するために、戦略マップで規定した CSF や中間目標および実行施策など、業務プロセスのギャップ分析結果から IT 系と非 IT 系に分離して検討する応用的知識を理解する。 ・ IS 戦略として検討すべき CSF や中間目標及び実行施策と、事業戦略を実現する企画として検討すべき CSF や中間目標及び実行施策とを適切に分離できるよう、ワークショップを通じて気付きを得る。
コマの学習内容	<p>- - 講義 - -</p> <p>(1) 業務のギャップ分析</p> <p>現状の業務モデル</p> <p>あるべき業務モデル</p> <p>業務上のギャップ (問題点)</p> <p>業務上のギャップの解決策</p> <p>解決策の分離 (IT 系と非 IT 系)</p> <p>(2) IT 環境のギャップ分析</p> <p>現状の IT 環境</p> <p>あるべき IT 環境</p> <p>IT 環境のギャップ (問題点)</p> <p>IT 環境のギャップの解決策</p> <p>(3) KPI の設定</p> <p>KPI と目標値の設定</p> <p>- - ワークショップ - -</p> <p>(1) 業務のギャップ分析</p> <p>(2) IT 環境のギャップ分析</p> <p>(3) KPI と目標値の設定</p>
時間の目安	<p>180 分</p> <p>(講義 : 30 分、ワークショップ : 150 分)</p>
その他	

5.2 . コマシラバス (5/6)

回数	第 5 回
コマタイトル	業務の新イメージの立案手法
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独力で IS 戦略を策定するために、戦略マップで規定した CSF や中間目標が実現した結果となる新しい業務イメージを描き、IT 系の問題点を明らかにできる応用的知識を理解する。 ・ IS 戦略として策定すべき IT 系の問題点と CSF や中間目標との関係を明らかにした新しい業務イメージが作成できるよう、ワークショップを通じて気づきを得る。
コマの学習内容	<p>- - 講義 - -</p> <p>(1) 実行施策 KPI を実現する施策</p> <p>(2) IS 戦略 対象の選定</p> <p>(3) 新情報システム 新情報システムの作成 投資目標の作成</p> <p>(4) 新業務 新業務イメージの作成</p> <p>- - ワークショップ - -</p> <p>(1) 実行施策の策定</p> <p>(2) IS 戦略の対象の選定</p> <p>(3) 新情報システムの作成</p> <p>(4) 新情報システム投資目標の作成</p> <p>(5) 新業務イメージの作成</p>
時間の目安	180 分 (講義 : 30 分、ワークショップ : 150 分)
その他	

5.2 . コマシラバス (6/6)

回数	第 6 回
コマタイトル	戦略の評価手法
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独力で IS 戦略の達成度を評価するために、実行施策のモニタリング、KPI のモニタリング、KGI のモニタリングおよび CSF の達成度評価の手法に関する応用的知識を理解する。 ・ モニタリングの段階的構造を理解できるよう、ワークショップを通じて気づきを得る。
コマの学習内容	<p>- - 講義 - -</p> <p>(1) 実行施策のモニタリングと評価 実行施策のモニタリング 実行施策の評価</p> <p>(2) KPI のモニタリングと評価 KIP のモニタリング KPI の評価</p> <p>(3) KGI のモニタリングと評価 KGP のモニタリング KGI の評価</p> <p>(4) CSF と IS 戦略の達成度評価 CSF の達成度評価 IS 戦略の達成度評価</p> <p>- - ワークショップ - -</p> <p>(1) 実行施策のモニタリングと評価</p> <p>(2) KPI のモニタリングと評価</p> <p>(3) KGI のモニタリングと評価</p> <p>(4) CSF と IS 戦略の達成度評価</p>
時間の目安	180 分 (講義 : 30 分、ワークショップ : 150 分)
その他	

シラバス 6.(02-S-06) IS 戦略中級

6.1. コースシラバス

コースコード	02-S-06
コース名	IS 戦略中級
講座分類	中級
コース分野	ストラテジ
研修方法	ワークショップ(講義を含む)
受講前提	IS 戦略に関して基礎的な知識を修得していること
コース概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「IS 戦略初級」の後続コースとして、IS 戦略の立案・策定・展開・評価に必要な情報の分析や課題の導出および戦略の評価が行えるように、そのメソッドロジに関する応用的な知識とスキルを学習する。 ・IS 戦略全般に関わる応用的な知識として、特に情報システム(As-Is)の調査・分析、情報技術動向の調査・分析、IS に関する課題抽出、さらに戦略の策定方法などを学習する。
コース目標	<ul style="list-style-type: none"> ・独力で、情報システム (As-Is) の内部環境分析としての対象領域ビジネスの現行業務分析、現行情報システム(As-Is)の分析およびない美環境からの課題抽出ができる応用的な知識を修得する。 ・外部環境分析として、ビジネスや情報技術の動向を総括的に捉え、分析することができる応用的な知識を修得する。 ・事業戦略を踏まえて、あるべき情報システムの新全体像 (To -Be) を描き、これを実現するためのシステム要件を導出し、中長期視点の投資計画の原案を策定できる応用的な知識を修得する。 ・IS 戦略全体計画の策定ができ、社内に提案できる応用的な知識を修得する。
コースに対応する 情報処理技術者試験	応用情報技術者試験 (システム戦略 システム活用促進・評価領域)
修得スキルの 評価方法	<p>以下の状況等を総合的に判断して評価する。</p> <p>受講前・受講後の知識確認テスト</p> <p>定量アンケート</p> <p>受講レポート</p> <p>演習課題の取り組み状況 など</p>

コースのコマ構成		
回数	コマタイトル	コマに対応する機能・役割定義
第 1 回	IS 戦略の環境分析（業務プロセス）	020-01. 対象領域ビジネスおよび環境の分析
第 2 回	IS 戦略の環境分析（IT 環境）	020-01. 対象領域ビジネスおよび環境の分析
第 3 回	IS 戦略の策定	020-02. IS 戦略の策定
第 4 回	IS 戦略の全体計画	020-03. IS 戦略全体計画の策定
第 5 回	IS 戦略の実行体制	020-04. IS 戦略実行体制の確立 020-05. 意図と指針の周知
第 6 回	IS 戦略のモニタリングと戦略評価	120-01. IS 戦略全体計画の評価 120-02. IS 戦略の評価
備考		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケースに使用するモデル企業は、文書または図解で提示し、第 1 回から第 6 回まで通して利用できるものが望ましい。 		

6.2 . コマシラバス (1/6)

回数	第 1 回
コマタイトル	IS 戦略の環境分析 (業務プロセス)
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業戦略を実現するための IS 戦略において、その対象となるビジネス領域の新しい IT イメージを含めた新しい業務プロセスの全体像を作成できる応用的な知識とスキルを学習する。 ・ 対象ビジネス領域の現行ビジネスモデルから現行ビジネスプロセスモデルとして把握し、あるべきビジネスプロセスから新ビジネスモデルを策定する留意点などを、ワークショップを通じて気付きとして得る。
コマの学習内容	<p>- - 講義 - -</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 対象ビジネス領域の理解 対象ビジネス領域の把握 領域のビジネスモデル など (2) 現行モデル 現行ビジネスプロセスモデル など (3) あるべきモデル あるべきビジネスプロセス など (4) ビジネスプロセスのギャップ分析 ビジネスプロセスの問題点 IT 系課題の解決策 など (6) 新業務の全体像 新業務の全体像イメージ など <p>- - ワークショップ - -</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 現行ビジネスプロセスモデル (2) あるべきビジネスプロセスモデル (3) ギャップ分析 (4) ビジネスプロセスの問題点の明確化 (5) IT 系課題の把握
時間の目安	180 分 (講義 : 30 分、ワークショップ : 150 分)
その他	

6.2 . コマシラバス (2/6)

回数	第 2 回
コマタイトル	IS 戦略の環境分析 (IT 環境)
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行の情報システムの目的、機能、保守・運用方法や障害状況、現行 IT 基盤の規模や能力などを調査・分析し、情報システムおよび IT 基盤の課題の抽出方法などの応用的な知識を学習する。 将来、あるべき情報システムの目的、機能、保守・運用方法および IT 基盤の規模や能力などを策定する応用的な知識をワークショップを通じて気付きとして得る。
コマの学習内容	<p>- - 講義 - -</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 現行情報システムの調査・分析 現行情報システムの調査・分析 現行情報システムの評価 現行情報システムの問題点 など (2) 将来の情報システムの設定 将来の情報システムの目的 将来の情報システムの機能 など (3) 現行 IT 基盤の調査・分析 現行 IT 基盤の調査・分析 現行 IT 基盤の評価 現行 IT 基盤の問題点 など (4) 将来の IT 基盤の設定 将来の IT 基盤の目的 将来の IT 基盤の機能 など <p>- - ワークショップ - -</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 現行情報システムの調査・分析 (2) 将来の情報システムの設定 (3) 現行 IT 基盤の調査・分析 (4) 将来の IT 基盤の設定
時間の目安	180 分 (講義 : 30 分、ワークショップ : 150 分)
その他	

6.2 . コマシラバス (3/6)

回数	第 3 回
コマタイトル	IS 戦略の策定
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ IS 戦略として展開する業務開発対象、業務改善対象および業務改革対象の識別並びにその優先順位付けなどの基本戦略策定に関する応用的な知識を学習する。 <p>基本戦略の対象に関し、企業目的への適合性を確認し、計画を実行するための資源の入手可能性確認、および中長期計画や IS 戦略の評価基準などを、ワークショップを通じて気付きとして得る。</p>
コマの学習内容	<p>- - 講義 - -</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本戦略の考え方 基本戦略の目的と意義 など (2) 業務プロセス・業務組織の課題 業務開発対象、業務改善対象、業務改革対象 など (3) 基本戦略策定 課題の優先順位付け 課題の解決手順 など (4) 中長期計画の策定 必要な情報資源の明確化 情報資源の入手計画 必要な経営資源の明確化 経営資源の入手計画 など <p>- - ワークショップ - -</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 業務プロセス・業務組織の課題の明確化 (2) 課題の優先順位付け (3) 基本戦略策定 (4) 中長期計画
時間の目安	180 分 (講義 : 30 分、ワークショップ : 150 分)
その他	

6.2 . コマシラバス (4/6)

回数	第 4 回
コマタイトル	IS 戦略の全体計画
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期的 (3 年程度) を見据えた情報システム投資原案を策定し、個別案件単位に計画を分割することができる応用的知識を理解する。 ・ IS 戦略実現に向けた実施スケジュールを策定し、実行に向けた概算費用を算出し予算化した全体計画を立案できる応用的知識を理解する。 ・ 全体計画から案件ごとの概略スケジュールを作成する手法や留意点などを、ワークショップを通じて気付きとして得る。
コマの学習内容	<p>- - 講義 - -</p> <p>(1) IS の全体最適化 全体最適による IS 戦略 重点実施項目を策定 全体最適による個別案件の分割 など</p> <p>(2) 中長期計画 中長期計画の立案 など</p> <p>(3) 短期計画 プロジェクト単位による短期計画の立案 年度ごとによる短期計画の立案 など</p> <p>(4) 個別案件 スケジュールの策定 概算費用の算出</p> <p>- - ワークショップ - -</p> <p>(1) 中長期計画の立案 (2) 短期計画の立案 (3) 個別案件スケジュール策定 (4) 個別案件の概算費用の算出</p>
時間の目安	180 分 (講義 : 30 分、ワークショップ : 150 分)
その他	

6.2 . コマシラバス (5/6)

回数	第 5 回
コマタイトル	IS 戦略の実行体制
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネス部門が情報システムオーナーおよびデータオーナーとして、それぞれの責任を果たせるよう、情報システムやデータを分類し、保護するための手続きを確立できる応用的知識を理解する。 ・ IS プロセスの構造とその関係、オーナーシップ、成熟度、成果の測定、改善、コンプライアンス、品質目標、達成のための計画を含めた IS 戦略実行プロセスなどを定義できる応用的知識を理解する。 ・ IS 統制環境の要素を定義し、IS 資源およびシステムの保護や企業全体を対象としたリスクと内部統制のアプローチを規定したフレームワークを作成および維持する方法を、ワークショップを通じて気付きとして得る。
コマの学習内容	<p>- - 講義 - -</p> <p>(1) システムオーナーとデータオーナー システムオーナー データオーナー</p> <p>(2) プロセスフレームワーク IS 戦略実行プロセスフレームワーク</p> <p>(3) コントロールフレームワーク IS 戦略実行コントロールフレームワーク</p> <p>- - ワークショップ - -</p> <p>(1) システムオーナーの定義</p> <p>(2) データオーナーの定義</p> <p>(3) IS 戦略実行プロセスフレームワークの作成</p> <p>(4) IS 戦略実行コントロールフレームワークの作成</p>
時間の目安	180 分 (講義 : 30 分、ワークショップ : 150 分)
その他	

6.2 . コマシラバス (6/6)

回数	第 6 回
コマタイトル	IS 戦略のモニタリングと戦略評価
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ IS 戦略におけるモニタリングの意義を理解し、モニタリング項目の指標の捕捉方法とそのタイミングおよび捕捉した実測値と目標値の差異分析と評価などの応用的な知識を学習する。 ・ 差異分析した結果を基に、IS 戦略の新たな課題を抽出し、フィードバックする手法などの応用的な知識を学習する。 ・ IS 戦略に関するモニタリングとその評価に関する留意点を、ワークショップを通じて気付きとして得る。
コマの学習内容	<p>- - 講義 - -</p> <p>(1) モニタリング モニタリングの目的と意義 モニタリング項目 など</p> <p>(2) モニタリング指標の捕捉 KGI KPI など</p> <p>(3) モニタリングの分析 差異分析 など</p> <p>(4) モニタリング結果の評価 改善事項や新しい課題の抽出</p> <p>(5) フィードバック 改善事項や新しい課題のフィードバック など</p> <p>- - ワークショップ - -</p> <p>(1) モニタリング指標の捕捉</p> <p>(2) モニタリングの分析</p> <p>(3) モニタリング結果の評価</p> <p>(4) フィードバック</p>
時間の目安	180 分 (講義 : 30 分、ワークショップ : 150 分)
その他	

シラバス 7.(02-S-07) 事業戦略上級

7.1. コースシラバス

コースコード	02-S-07
コース名	事業戦略上級
講座分類	上級
コース分野	ストラテジ
研修方法	ワークショップ(講義を含む)
受講前提	企業と法務および事業戦略(経営戦略)に関して応用的な知識を修得していること
コース概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「事業戦略中級」の後続コースとして、事業戦略や経営管理について、戦略策定プロジェクトや全体計画策定プロジェクトなどの指導や管理ができる高度かつ専門的な知識を学習する。 ・ 経営要求・経営環境の確認、経営要求に基づく解決すべき課題の優先順位付け選択基準の設定、基本戦略や全体計画の承認、さらに、外部からの資源調達などについて、主にワークショップを通して学習する。
コース目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業戦略を立案し、実行する責任ある立場として、中長期構想を正確に捉え、事業戦略の全体計画や年度計画などの達成報告する内容について評価し、さらにコントロールフレームワークを確立し、実践する知識とスキルを修得する。 ・ ISに関連する経営戦略課題について、事業戦略からIS戦略につなげる内容を取締役会等の理解を得て共有し、内外のステークホルダーとの信頼関係を確立する実践的な知識とスキルを修得する。 ・ 取締役会等を含めたトップマネジメントとのコミュニケーション計画を策定し、事業戦略や経営管理に必要な情報を周知徹底させることができる実践的な知識とスキルを修得する。
コースに対応する 情報処理技術者試験	ITストラテジスト試験
修得スキルの 評価方法	<p>以下の状況等を総合的に判断して評価する。</p> <p>受講前・受講後の知識確認テスト</p> <p>定量アンケート</p> <p>受講レポート</p> <p>演習課題の取り組み状況 など</p>

コースのコマ構成		
回数	コマタイトル	コマに対応する機能・役割定義
第 1 回	経営要求の確認	010-01. 経営要求の確認
第 2 回	経営課題の抽出	010-01. 経営要求の確認
第 3 回	新ビジネスモデルへの提言	010-02. 新ビジネスモデルへの提言
第 4 回	事業戦略実現のリスク評価	010-03. 事業戦略実現シナリオへの提言
第 5 回	事業戦略実現シナリオへの提言	010-03. 事業戦略実現シナリオへの提言
第 6 回	事業戦略の評価	130-01. 事業戦略の評価 130-02. 事業戦略達成度評価のフィードバック
備考		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケースに使用するモデル企業は、文書または図解で提示し、第 1 回から第 6 回まで通して利用できるものが望ましい。 		

7.2 . コマシラバス (1/6)

回数	第 1 回
コマタイトル	経営要求の確認
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業戦略を策定するために考慮すべき経営ビジョンやミッション、経営目標などを捉え、これに沿った対象ビジネスの領域を特定することを理解する。 ・ 事業戦略策定時に、部下が経営要求を確認し、対象ビジネスの領域を特定する際の留意点等を指導および管理できるための観点を、ワークショップを通じて気付きを得る。
コマの学習内容	<p>- - 講義 - -</p> <p>(1) 経営ビジョン・ミッション 企業理念 事業領域、存在意義、経営姿勢、行動規範 経営目標 など</p> <p>(2) 事業ドメイン分析 現状事業ドメイン 新事業ドメイン など</p> <p>(3) 経営環境分析 外部経営環境分析 内部経営環境分析 SWOT 分析 など</p> <p>(4) 最上位ビジネスモデル 現状ビジネスモデル 新ビジネスモデル</p> <p>- - ワークショップ - -</p> <p>(1) 経営ビジョン・ミッションの確認</p> <p>(2) 現状事業ドメイン分析</p> <p>(3) SWOT 分析</p>
時間の目安	180 分 (講義 : 30 分、ワークショップ : 150 分)
その他	

7.2 . コマシラバス (2/6)

回数	第 2 回
コマタイトル	経営課題の抽出
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営ビジョン・ミッション、現状事業ドメイン分析、SWOT 分析などから得た結果から、事業戦略策定に関する経営課題を適切に抽出できることを理解する。 ・ 事業戦略の経営課題の抽出時に、部下が適切に経営課題を抽出する際の留意点を指導および管理できるための観点を、ワークショップを通じて気付きを得る。
コマの学習内容	<p>- - 講義 - -</p> <p>(1) SWOT のクロス分析</p> <p>強み - 機会</p> <p>強み - 脅威</p> <p>弱み - 機会</p> <p>弱み - 脅威</p> <p>(2) 経営課題の順位付け</p> <p>実現度</p> <p>優先度</p> <p>効果・貢献度 など</p> <p>(3) CSF の決定</p> <p>CSF の決定</p> <p>(4) CSF の IT の観点からの評価</p> <p>システム構築面</p> <p>システム運用・保守面</p> <p>- - ワークショップ - -</p> <p>(1) SWOT のクロス分析</p> <p>(2) 経営課題の順位付け</p> <p>(3) CSF の決定</p> <p>(4) CSF の IT の観点からの評価</p>
時間の目安	<p>180 分</p> <p>(講義 : 30 分、ワークショップ : 150 分)</p>
その他	

7.2 . コマシラバス (3/6)

回数	第 3 回
コマタイトル	新ビジネスモデルへの提言
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ IT 動向を網羅的かつ総括的に捉え、事業戦略を解決できる IT を適切に特定し、新しいビジネスモデルから革新的な事業領域を明確した提言をすることを理解する。 ・ 新ビジネスモデルの提言のために、部下が適切に新ビジネスモデルを策定する際の留意点を指導および管理できるための観点を、ワークショップを通じて気付きを得る。
コマの学習内容	<p>- - 講義 - -</p> <p>(1) 事業ドメイン分析 新事業ドメインの策定 など</p> <p>(2) 新ビジネスモデル 競争優位 成長性 効率性 など</p> <p>(3) ビジネスモデル表記法 ビジネス関連図 ビジネス機能関連図 など</p> <p>- - ワークショップ - -</p> <p>(1) 新事業ドメインの策定</p> <p>(2) 新ビジネスモデルの策定 ビジネス関連図 機能関連図</p>
時間の目安	180 分 (講義 : 30 分、ワークショップ : 150 分)
その他	

7.2 . コマシラバス (4/6)

回数	第 4 回
コマタイトル	事業戦略実現のリスク評価
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネスモデルと IS および IT 基盤構造の全体最適化の観点、IS 資源の普及度合いや先進度合いの観点や予算の観点などから、事業戦略の実現可能性を評価することができることを理解する。 ・ 事業戦略の実現に関するリスクについて、さまざまな視点から抽出し、その対応策を策定することができることを理解する。 ・ 事業戦略の実現性のリスク評価やマネジメントにおいて、部下が適切にリスク評価やマネジメントする際の留意点を指導および管理できるための観点を、ワークショップを通じて気付きを得る。
コマの学習内容	<p>- - 講義 - -</p> <p>(1) 全体最適化</p> <p style="padding-left: 40px;">IS の全体最適化</p> <p style="padding-left: 40px;">IT 基盤の全体最適化</p> <p style="padding-left: 40px;">IS ・ IT に関する組織の成熟度</p> <p>(2) IT 予算の検討</p> <p>(3) リスクの抽出</p> <p>(4) リスクの評価</p> <p style="padding-left: 40px;">リスクの回避</p> <p style="padding-left: 40px;">損失発生予防・防止</p> <p style="padding-left: 40px;">損失の軽減</p> <p style="padding-left: 40px;">リスクの分散</p> <p style="padding-left: 40px;">契約によるリスクの移転</p> <p>- - ワークショップ - -</p> <p>(1) 経営課題の実現性の評価</p> <p>(2) 事業戦略のリスクマネジメント</p>
時間の目安	180 分 (講義 : 30 分、ワークショップ : 150 分)
その他	

7.2 . コマシラバス (5/6)

回数	第 5 回
コマタイトル	事業戦略実現のシナリオへの提言
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業戦略実現のシナリオを戦略マップとして策定し、事業戦略の実現度合いを確認するための成果指標や目標値、その実現に向けた活動が適正に実施されているかを把握するための活動指標や目標値を設定することができることを理解する。 ・ 部下が、戦略マップ作成やモニタリング指標等を設定できるように、事業戦略の戦略マップの作成やモニタリング項目および指標の目標値の設定の留意点を指導および管理できるための観点を、ワークショップを通じて気付きを得る。
コマの学習内容	<p>- - 講義 - -</p> <p>(1) BSC (Balanced Scorecard : バランススコアカード)</p> <p>戦略マップの作成</p> <p>財務の視点</p> <p>顧客の視点</p> <p>業務プロセスの視点</p> <p>学習と成長の視点</p> <p>(2) KGI</p> <p>KGI の設定</p> <p>KGI の目標値の設定</p> <p>(3) KPI</p> <p>KPI の設定</p> <p>KPI の目標値の設定</p> <p>実行項目の検討</p> <p>- - ワークショップ - -</p> <p>(1) 戦略マップの作成</p> <p>(2) KGI と目標値の設定</p> <p>(3) KPI と目標値の設定</p>
時間の目安	<p>180 分</p> <p>(講義 : 30 分、ワークショップ : 150 分)</p>
その他	

7.2 . コマシラバス (6/6)

回数	第 6 回
コマタイトル	事業戦略の評価
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業戦略の評価指標として設定した KGI および KPI を、決められた方法とタイミングによって把握し、実測値と目標値とを対比した差異分析等を行い、その結果を評価および検証し、評価結果を次期事業戦略にフィードバックすることができることを理解する。 ・ KGI や KPI の捕捉、実測値と目標値との差異分析、評価結果を次期事業戦略に反映などにおいて、部下が適切に捕捉、分析、反映の際の留意点を指導および管理できるための観点を、ワークショップを通じて気付きを得る。
コマの学習内容	<p>- - 講義 - -</p> <p>(1) モニタリング</p> <p> モニタリング項目の捕捉方法</p> <p> モニタリング項目の捕捉タイミング</p> <p> 差異分析</p> <p> 結果の検証と評価</p> <p>(2) 次期事業戦略へのフィードバック</p> <p>- - ワークショップ - -</p> <p>(1) KPI</p> <p> KPI の捕捉</p> <p> KPI の結果の検証</p> <p> KPI 結果の評価</p> <p>(2) KGI</p> <p> KGI の捕捉</p> <p> KGI の結果の検証</p> <p> KGI 結果の評価</p> <p>(3) 次期事業戦略へのフィードバック</p>
時間の目安	<p>180 分</p> <p>(講義 : 30 分、ワークショップ : 150 分)</p>
その他	

シラバス 8.(02-S-08) IS戦略上級

8.1. 科目シラバス

コースコード	02-S-08
コース名	IS 戦略上級
講座分類	上級
コース分野	ストラテジ
研修方法	講義（ミニ演習課題を含む）
受講前提	IS 戦略に関して応用的な知識を修得していること
コース概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「IS 戦略中級」の後続コースとして、IS 戦略の立案・策定・展開・実行・評価を指導・管理できる立場として、情報システムの分析や課題の導出および戦略の評価などに関する高度かつ専門的な知識を学習する。 ・ 情報技術動向の調査・分析、ビジネスモデル策定への助言、IS 資源における実現可能性の確認、課題・リスクの洗い出しなどの高度な知識を学習する。
コースの目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報システムの内部環境分析として、対象領域ビジネスの現行業務プロセス分析、現行情報システム(As-Is)の分析および課題抽出などを指導・管理ができる実践的な知識を修得する。 ・ 外部環境分析として、ビジネス動向や情報技術動向を総括的に捉える手法などを指導・管理ができる実践的な知識を修得する。 ・ 事業戦略を踏まえて、あるべき情報システムの新全体像（To-Be）を描き、主なシステム要件の導出などを指導・管理ができる実践的な知識を修得する。 ・ あるべき情報システムの新全体像（To-Be）の実現に向けて、中長期視点の投資計画の原案策定などを指導・管理ができる実践的な知識を修得する。 ・ IS 戦略全体計画の策定ができ、社内提案など指導・管理ができる実践的な知識を修得する。
コースに対応する 情報処理技術者試験	IT ストラテジスト試験
修得スキルの 評価方法	<p>以下の状況等を総合的に判断して評価する。</p> <p>受講前・受講後の知識確認テスト</p> <p>定量アンケート</p> <p>受講レポート</p> <p>演習課題の取り組み状況 など</p>

コースのコマ構成		
回数	コマタイトル	コマに対応する機能・役割定義
第 1 回	事業戦略の確認	020-01. 対象領域ビジネスおよび環境の分析
第 2 回	業務の新全体像の作成	020-01. 対象領域ビジネスおよび環境の分析
第 3 回	業務プロセスの調査、分析	020-01. 対象領域ビジネスおよび環境の分析
第 4 回	IS、IT 基盤の調査、分析	020-01. 対象領域ビジネスおよび環境の分析
第 5 回	基本戦略の策定	020-02. IS 戦略の策定 020-03. IS 戦略全体計画の策定
第 6 回	IS 対象の選定と投資目標の策定	020-02. IS 戦略の策定 020-03. IS 戦略全体計画の策定
第 7 回	IS 戦略の成果指標の設定と承認	020-03. IS 戦略全体計画の策定 020-04. IS 戦略実行体制の確立
第 8 回	IS 戦略のモニタリングと評価	120-01. IS 戦略全体計画の評価 120-02. IS 戦略の評価
備考		
<ul style="list-style-type: none"> ミニ演習課題は、IT ストラテジスト試験午後問題程度が適切である。 		

8.2 . コマシラバス (1/8)

回数	第 1 回
コマタイトル	事業戦略の確認
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業戦略のうち、IT 動向や IT の適用事例などから IT を適用することで付加価値を向上し、事業戦略を実現するビジネス領域を選定できる実践的な知識を理解する。 ・ 部下に、ビジネスモデルと情報資源の全体最適化、IT 基盤構造の全体最適化、利用する情報資源の普及度合いや先進度合いの観点からの実現可能性の評価などの方法を指導する実践的な知識を理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 事業戦略企画 戦略マップ CSF KGI KPI 実行項目 など</p> <p>(2) IT 系と非 IT 系の切り分け IT 系課題 非 IT 系課題 など</p> <p>(3) IT 系課題の理解 対象となるビジネス領域の選定 新ビジネスモデルの実現性評価 情報資源の実現性評価 IT 基盤構造の実現性評価 IT 成熟度の実現性評価 など</p> <p>(4) IT 動向調査 IT 動向 IT 適用事例 近似事例 など</p> <p>(5) IT 系課題の特定 IT 戦略の内容の特定 など</p>
時間の目安	90 分 (講義 : 70 分、ミニ演習課題 : 20 分)
その他	

8.2 . コマシラバス (2/8)

回数	第 2 回
コマタイトル	業務の新全体像の作成
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業戦略を実現するための IS 戦略において、その対象となるビジネス領域の新しい業務プロセスの全体像を新しい IT イメージを含めて作成できる実践的な知識と、目標とする新業務イメージと、新システムの全体イメージとの整合性を確認および評価できる実践的な知識を理解する。 ・ 部下に、対象ビジネス領域の現行ビジネスモデルを現行ビジネスプロセスモデルとして把握し、あるべきビジネスプロセスから新ビジネスモデルを策定する方法を指導する実践的な知識を理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 対象ビジネス領域の理解 対象ビジネス領域の把握 領域のビジネスモデル など</p> <p>(2) 現行モデル 最上位の現行業務機能モデル 最上位の現行業務組織モデル 現行ビジネスプロセスモデル など</p> <p>(3) あるべきモデル あるべきビジネスプロセス 最上位の新業務機能モデル 最上位の新業務組織モデル など</p> <p>(4) 新システムイメージの検討 新業務機能からの検討 新業務組織からの検討 など</p> <p>(5) 新システムイメージ像の整合性確認 IT 系課題解決との整合性 事業戦略実現との整合性 など</p> <p>(6) 新業務の全体像 新業務の全体像イメージ など</p>
時間の目安	90 分 (講義 : 70 分、ミニ演習課題 : 20 分)
その他	

8.2 . コマシラバス (3/8)

回数	第 3 回
コマタイトル	業務プロセスの調査、分析
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務プロセスの調査・分析手法、IT 利用者の情報活用能力や IT 利用能力などの IT 成熟度を評価する際の留意点など、高度で実践的な知識を理解する。 ・ 部下が、現行業務プロセスや業務組織および技術などの情報収集や業務上の課題の分析や抽出などができるように指導し、これらの業務を管理できる実践的な知識を理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 業務プロセスの表記手法 業務フロー データフローダイアグラム など</p> <p>(2) 業務プロセスの調査・分析 現行業務プロセスの調査 現行業務プロセスの分析 現行業務プロセスの評価 など</p> <p>(3) 業務組織の調査・分析 現行業務組織の調査 現行業務組織の分析 現行業務組織の評価 など</p> <p>(4) IT 成熟度 現行 IT 成熟度の調査 現行 IT 成熟度の分析 現行 IT 成熟度の評価 目標とする IT 成熟度の設定 など</p> <p>(5) 業務上の課題の明確化 現行業務プロセスの課題 現行業務組織の課題 IT 成熟度の課題 など</p>
時間の目安	90 分 (講義 : 70 分、ミニ演習課題 : 20 分)
その他	

8.2 . コマシラバス (4/8)

回数	第 4 回
コマタイトル	IS、IT 基盤の調査、分析
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来あるべき情報システムの目的、機能、保守・運用方法および IT 基盤の規模や能力などを策定する際の留意点など高度で実践的な知識を理解する。 ・ 部下が、適切に IS や IT 基盤の調査、分析、抽出し、現行の情報システムの目的・機能、保守運用方法や障害状況、現行 IT 基盤の規模や能力などの課題を抽出する手法を指導し、管理できる実践的な知識を理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 情報システムの評価基準 情報システムの業界水準の把握 情報システムの評価基準設定 など</p> <p>(2) 現行情報システムの調査・分析 現行情報システムの調査 現行情報システムの分析 現行情報システムの評価 現行情報システムの問題点 など</p> <p>(3) 将来の情報システムの設定 将来の情報システムの目的 将来の情報システムの機能 など</p> <p>(4) IT 基盤の評価基準 IT 基盤の業界水準の把握 IT 基盤の評価基準設定 など</p> <p>(5) 現行 IT 基盤の調査・分析 現行 IT 基盤の調査 現行 IT 基盤の分析 現行 IT 基盤の評価 現行 IT 基盤の問題点 など</p> <p>(6) 将来の IT 基盤の設定 将来の IT 基盤の目的 将来の IT 基盤の機能 など</p>
時間の目安	90 分 (講義 : 70 分、ミニ演習課題 : 20 分)
その他	

8.2 . コマシラバス (5/8)

回数	第 5 回
コマタイトル	基本戦略の策定
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本戦略の対象に関し、企業目的への適合性を確認し、計画を実行するための資源の入手可能性確認も含めた中長期計画や情報戦略の評価基準などを作成する高度で実践的な知識を理解する。 ・ 部下が、IS 戦略として展開する実施すべき業務開発対象、業務改善対象および業務改革対象の識別並びにその優先順位付けなどの基本戦略の策定を、適切に識別、順位付け、策定できるように留意すべき点を指導し、管理できる実践的な知識を理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 基本戦略の考え方 基本戦略の目的と意義</p> <p>(2) 業務プロセス・業務組織の課題 業務開発対象 業務改善対象 業務改革対象 など</p> <p>(3) 課題の優先順位付け 合目的性 実現性 実行可能性 など</p> <p>(4) 基本戦略策定 課題の解決手順 など</p> <p>(5) 中長期計画 必要な情報資源の明確化 情報資源の入手計画 必要な経営資源の明確化 経営資源の入手計画 など</p> <p>(6) IS 戦略の評価基準 評価基準の策定 など</p>
時間の目安	90 分 (講義 : 75 分、ミニ演習課題 : 15 分)
その他	

8.2 . コマシラバス (6/8)

回数	第 6 回
コマタイトル	IS 対象の選定と投資目標の策定
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新業務の目標達成のための概算費用を算出し、効果および潜在的リスクの分析を通じて情報システム投資対象の選定と目標の設定を事項管理する高度で実践的な知識を学習する。 ・ 部下が、将来的に必要となる最上位の業務機能と業務組織の検討を行い、業務再構成検討も含めて目標とする業務の新全体像のイメージの策定を行い、概算の算出ができるように指導し、これらの業務を管理できる実践的な知識を理解する。
コマの学習内容	<p>(1) 業務開発・改善・改革対象の検討 業務機能の抽出 業務情報の抽出 など</p> <p>(2) 新全体像のイメージ策定 抽出した業務機能の確認 抽出した業務情報の確認 業務機能と業務情報との整合性確認 業務モデルと情報モデルの洗練 新全体像のイメージ策定</p> <p>(3) 新全体像の実現 新業務を実現する情報システムのイメージ 新業務を実現する IT 基盤のイメージ</p> <p>(4) 情報システムと IT 基盤の概算費用 情報システムの概算費用の算出 IT 基盤の概算費用の算出</p> <p>(5) 情報システムの効果とリスク分析 投資対効果の算出 リスク分析 など</p> <p>(6) 投資対象の選定 投資対象情報システムの選定 情報システムに関わる IT 基板の選定 など</p>
時間の目安	90 分 (講義 : 75 分、ミニ演習課題 : 15 分)
その他	

8.2 . コマシラバス (7/8)

回数	第 7 回
コマタイトル	IS 戦略の成果指標の設定と承認
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本戦略から選定した業務の新全体像および投資目標に基づいて IS 戦略の推進体制を構築し、IS 戦略の承認など推進する高度で実践的な知識を学習する。 ・ 部下に、IS 戦略の実現度合いを確認するための成果指標および IS 戦略の実現に向けた活動が適正に実施されているかを把握するための活動指標の設定などを指導し、これらの業務を管理できる実践的な知識を学習する。
コマの学習内容	<p>(1) 重要目標達成指標 目標達成指標の設定 目標値の設定 など</p> <p>(2) 重要業績評価指標 重要業績評価指標の設定 目標値の設定 など</p> <p>(3) モニタリング計画 モニタリングの捕捉方法 モニタリングの捕捉タイミング など</p> <p>(4) 推進体制の構築 プロジェクト体制 プロジェクト期間 プロジェクト予算 など</p> <p>(5) IS 戦略企画書 IS 戦略企画書の作成 IS 戦略の承認 など</p> <p>(6) IS 戦略実行プロセス プロセスフレームワークの構築 など</p> <p>(7) IS 統制環境の要素 コントロールフレームワークの構築 など</p>
時間の目安	90 分 (講義 : 75 分、ミニ演習課題 : 15 分)
その他	

8.2 . コマシラバス (8/8)

回数	第 8 回
コマタイトル	IS 戦略のモニタリングと評価
コマの学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ IS 戦略におけるモニタリングの意義の理解を深め、差異分析した結果を基に、IS 戦略の新たな課題を抽出し、フィードバックする高度で実践的な知識を理解する。 ・ 部下が適切に抽出留意すべき点を指導および管理できる ・ 部下に、モニタリング項目の指標の捕捉方法とそのタイミングおよび捕捉した実測値と目標値の差異分析と評価およびフィードバックできるように指導し、これらの業務を管理できる実践的な知識を理解する。
コマの学習内容	<p>(1) モニタリング モニタリングの目的と意義 モニタリング項目 など</p> <p>(2) モニタリング指標の捕捉 KGI KPI</p> <p>(3) モニタリングの分析 差異分析 管理図法 など</p> <p>(4) モニタリング結果の評価 改善事項の抽出 新しい課題の抽出</p> <p>(5) フィードバック 改善事項のフィードバック 新しい課題のフィードバック など</p>
時間の目安	90 分 (講義 : 70 分 演習課題 : 20 分)
その他	